

## 神奈川県競輪組合あり方検討委員会について

### 1 あり方検討委員会の設置趣旨

本年4月、神奈川県競輪組合、神奈川県、横浜市及び横須賀市は、厳しい経営状況にある神奈川県競輪組合の経営改善の方策及び今後のあり方について専門的な視点から検討を行うため、有識者による「神奈川県競輪組合あり方検討委員会」を共同で設置しました。

### 2 あり方検討委員会の委員

役職	氏名	現職
委員長	山田 紘 祥	文教大学国際学部 教授
副委員長	竹森 裕 子	弁護士
	石飛 博 己	税理士
	小坂 伸 吉	(株)アルファ総合計画研究所 代表取締役
	鈴木 賢 三	(社)全国競輪施行者協議会 総務部長
	平野 末 吉	前全国競輪場施設協会 会長

### 3 これまでの検討状況

全6回にわたり、あり方検討委員会を実施するとともに、関係者からのヒアリングを中心とした経営改善検討部会を3回開催しました。

○あり方検討委員会	○経営改善検討部会
第1回 4月22日	第1回 6月11日
第2回 5月9日	第2回 7月2日
第3回 6月17日	第3回 7月9日
第4回 7月21日	
第5回 8月24日	
第6回 9月15日	

### 4 報告書について

本日、午後、あり方検討委員会より報告書が提出される予定ですので、組合議会（全員協議会）に組合が報告書を説明するとともに、組合及び構成団体が同時に記者発表を行う予定です。

### 5 今後の対応

報告書の提案内容を踏まえ、施行者である神奈川県競輪組合及び構成団体間（神奈川県・横須賀市・横浜市）の協議を進めてまいります。

## 参考

### 【審議経過】

#### ○委員会

〈第1回〉平成21年4月22日（水）

- 1 神奈川県競輪組合の経営状況について

〈第2回〉平成21年5月9日（土）

- 1 花月園競輪場の視察について
- 2 利益確約型競輪開催業務（包括）委託契約について
- 3 施設会社からの意見聴取について
- 4 部会の設置について

〈第3回〉平成21年6月17日（水）

- 1 神奈川県競輪組合の今後の収支見通しについて
- 2 経済産業省からの説明及び意見交換について
- 3 第1回経営改善検討部会結果について
- 4 平成20年度包括委託契約に基づく損失補てんについて

〈第4回〉平成21年7月21日（火）

- 1 第2回、第3回経営改善検討部会結果について
- 2 経営改善方策について

〈第5回〉平成21年8月24日（月）

- 1 神奈川県競輪組合あり方検討委員会検討のまとめについて

〈第6回〉平成21年9月15日（火）

- 1 神奈川県競輪組合あり方検討委員会報告について

#### ○経営改善検討部会

〈第1回〉平成21年6月11日（木）

- 1 （財）日本自転車競技会から、花月園競輪の現状と経営改善方策についてヒアリング
- 2 （社）全国競輪施行者協議会から、全国の施行者の状況と競輪振興策についてヒアリング

〈第2回〉平成21年7月2日（木）

- 1 （社）競輪選手会から、花月園競輪の現状と経営改善方策についてヒアリング
- 2 （財）JKAから、全国の施行者の状況と競輪振興策についてヒアリング

〈第3回〉平成21年7月9日（木）

- 1 神奈川競輪競馬労働組合から、花月園競輪の現状と経営改善方策についてヒアリング

## 神奈川県競輪組合あり方検討委員会・報告書（案）の概要

### ■神奈川県競輪組合の経営状況

- ・平成 20 年度の車券の売上（以下「売上」）は、約 165 億 9, 000 万円
- ・組合が設立された平成 10 年度の売上は約 415 億円。それ以降、特別競輪が開催された年度を除き減少傾向が続く。
- ・入場者数も平成 10 年度以降減少
- ・平成 10 年度以降の単年度収支は、様々な経営改善への取り組みにより平成 15 年度及び平成 16 年度は実質黒字となったが、それ以外の年度は赤字となり、平成 20 年度末での累積赤字は約 49 億円

### ■経営環境の分析

#### ○硬直的経費構造

- ・売上の約 80%は払戻金（75%）や（財）JKA 交付金などの法定経費
- ・この他、電話投票の運営費や審判委託料、選手賞金などがあり、施行者の裁量により削減可能な経費は極めて小さい。

#### ○全国状況

- ・全国の売上のピークは平成 3 年度の約 1 兆 9, 500 億円
- ・それ以後は減少の一途をたどり、平成 20 年度は約 7, 900 億円とピーク時の約 4 割

#### ○神奈川県競輪組合固有の特色

- ・花月園競輪場は施設会社である花月園観光（株）の所有のため、賃貸料を支払っている。
- ・県内には花月園競輪場のほか川崎、平塚、小田原と 4 つの競輪場があり、全国でも競輪場が集中している地域
- ・特に川崎競輪場とは近接のため、開催日程が重複しないよう調整するため、花月園競輪場での専用場外発売は 74 日にとどまる。（他の多くは 200 日以上）
- ・住宅密集地に所在のため、住環境を低下させるナイター開催、年末年始の開催は困難
- ・花月園競輪場の駐車場は狭隘で、全国で最も少ない 150 台
- ・花月園競輪場のほか、川崎競輪場、小田原競輪場を借り上げて年 1 回開催
- ・専用場外発売所であるサテライト横浜、サテライト水戸の管理施行者

### ■将来推計

- ・神奈川県競輪組合の今後の収支見通しは、現状の運営形態、収益構造が現行の制度、契約のまま継続することを前提とした場合、単年度収支は毎年約 5 億円の赤字が見込まれ、累積赤字はさらに拡大し、平成 25 年度には約 77 億円

### ■新たな経営改善方策の検討

- ・競輪関係者からのヒアリング等を通じ、様々な経営改善方策が出されたが、実現可能性のある方策を講じた場合の年間改善効果額の見込みは 1 億円に満たず、抜本的な赤字改善にならない。

## ■神奈川県競輪組合の今後のあり方

### ○競輪事業撤退の影響

- ・神奈川県競輪組合には約49億円の累積赤字があるため、競輪事業を廃止した場合は、組合は解散することとなり、組合が負う一切の債務はすべて構成団体が引き継ぐ。
- ・競輪関係者から神奈川県競輪組合に対して、損害賠償の請求がなされる可能性がある。

### ○経営改善の可能性

- ・神奈川県競輪組合の競輪事業を抜本的に改善し、黒字経営に転換できるような方策を見いだすことはできず、JKA交付金や選手賞金など制度面の改正がなされなければ、施行者のみの努力では赤字を解消することは極めて困難であると言わざるを得ない。
- ・今後も収益を計上する見込みがない以上、競輪事業を存続させる積極的な理由を見いだすことはできず、その存廃を含めた今後の競輪事業のあり方について、神奈川県競輪組合及び構成団体として早急に判断すべき。

### ○今後のあり方についての課題と提案（結論部分）

- ・競輪事業を廃止するか否かは、様々な影響も考慮しながら、神奈川県競輪組合及びその構成団体の責任において、適切に判断すべきものであるが、現状のまま競輪事業を継続することは、さらなる赤字を重ねることになり、認められるものではなく、基本的には競輪事業から撤退する方向で検討せざるを得ないものと思われる。
- ・特に花月園競輪場での開催は、現在開催業務の受託者であり、施設所有者でもある花月園観光（株）の状況等を踏まえれば、早期に廃止する方向で調整を進める必要がある。
- ・なお、川崎・小田原両競輪場での借上開催の取扱いについて考えておく必要がある。
- ・川崎・小田原競輪場での借上開催とサテライトの管理施行に特化し、事業規模をコンパクト化することで、事業収支のみに着目すれば、わずかながらも収益を確保できる可能性もある。
- ・その際、開設記念クラスの競輪開催をJKA交付金猶予制度と合わせた特例措置として国に協議することが考えられ、これが認められれば、後年度に負担が残るものの、特例期間には相当額の収益が見込まれる。
- ・当委員会としては、神奈川県競輪組合の特徴を生かしたあり方として、上記のとおり提案しておくが、あくまでも一つの可能性であり、構成団体はもちろん、国や関係機関の協力がなければ実現できず、また売上状況によっては赤字となる可能性もあることから、慎重に検討する必要がある。